

- 今年のコシヒカリの出穂期は近年より4日遅い8月4日頃であったことから、収穫適期は近年よりやや遅い9月13日頃と予想されます。
- ほ場ごとに籾の黄化状況を確認して、適期収穫に努めましょう。
- 適切な乾燥・調製で、胴割米等による品質低下を防ぎましょう。

1. コシヒカリの刈取りは遅れずに

胴割米に注意！

- (1) 籾の黄化状況を必ず確認し、黄化率85%から収穫を始めて、適期内に収穫を終えましょう。
- (2) 砂壤土や枯上がり早いほ場から収穫を始めて、刈遅れによる胴割米の発生を防ぎましょう。

表1 出穂期からみた移植「コシヒカリ」と「てんこもり」の刈取適期の目安

出穂期	8/4日頃(コシヒカリ)	8/6日頃(てんこもり)
刈取適期(目安)	9/13頃	9/18頃

※成熟期が高温の場合、刈取適期幅が短くなるので注意しましょう。
※実際の刈取りは、各地域の「刈取適期表示」(刈取始期を表示)を参考にしてください。

◎直播栽培においても、刈遅れによる胴割米発生に注意しましょう！

点線内の籾が黄化したときが、黄化率85～90%程度です。



(枝梗が9本程度の穂を3～4本調査)

2. 刈取り1週間前まで間断かん水を

～最後まで稲の活力を維持しましょう！～

- (1) 刈取りの5～7日前までは、「間断かん水」を行い、稲の活力を維持して胴割米の発生を防止しましょう。
※フェーン等の高温が予想される時は、事前に入水！
- (2) クサネム・ヒエ等の異物混入につながる雑草は、収穫前に必ず抜き取りましょう。



3. 適正な乾燥で過乾燥米を防ぎましょう

～玄米水分は確実に14.5～15.0%へ！～

【乾燥作業の留意点】

- (1) ヤケ米の発生防止のため、刈取った籾は4時間以内に乾燥機に張り込み通風しましょう。
- (2) 乾燥前に、2～3時間程度の常温通風循環を行いましょ。
- (3) 乾燥ムラを出さないために、二段乾燥(籾水分が17%台になったら一時中断し、水分を均一にする)を行いましょ。
- (4) 青米の混入程度を確認し、表2を参考に乾燥機の停止水分を設定しましょ。

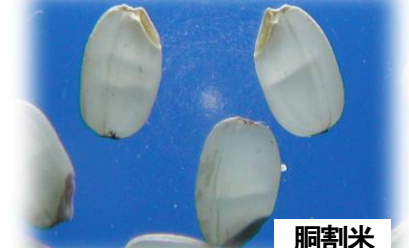
表2 乾燥機の停止水分判定の目安

100粒中の青米数	乾燥機の設定停止水分	乾燥機停止後の水分変化
0～5粒	15.0～15.5%	乾く (-0.5%)
6～10粒	14.5～15.0%	ほとんど変わらない
11粒以上	14.0～14.5%	もどる (+0.5%)

※玄米水分が17%を切ったら、手動水分計でこまめに測定しましょ。



こんなことにならないよう気をつけてくださいね！



※米卸業者からは、軽微な胴割れも防ぐことが求められています！！

【調製作業の留意点】

- (1) 籾摺りは、乾燥後2～3日置いて玄米水分を均一にしてから行い、肌ずれ米の発生を防ぎましょ。
- (2) 選別は1.9mmの篩目を使用するとともに、機種ごとの適正流量を守り、完全粒歩合を高めましょ。

とやまGAPの実践 「事前点検でコンバイン事故等を防ぎましょ！！」
秋の農作業安全運動 8月20日～10月20日

うら面に続く

令和3年産米に向けて！ 美味しいあおば米は、まず土づくりから！！

管内の土壤中ケイ酸は不足しています！改善に向けて取り組みましょう。

1. 土づくり資材の散布 ～土づくり資材は継続して散布しましょう！～

- (1) アルカリ成分を含むケイ酸質資材を毎年、確実に適正量を施用しましょう。
- (2) 土壌pHが低いとカドミウムが吸収されやすくなります。カドミウムの吸収を抑えるため、土壌pHは6.0～6.5を目標に改良しましょう。
- (3) 籾殻、わらはは重要な土づくり資源です。絶対に燃やさず、鋤き込みましょう。
- (4) 営農組織や集落単位で、効率的な土づくりに取り組みましょう。

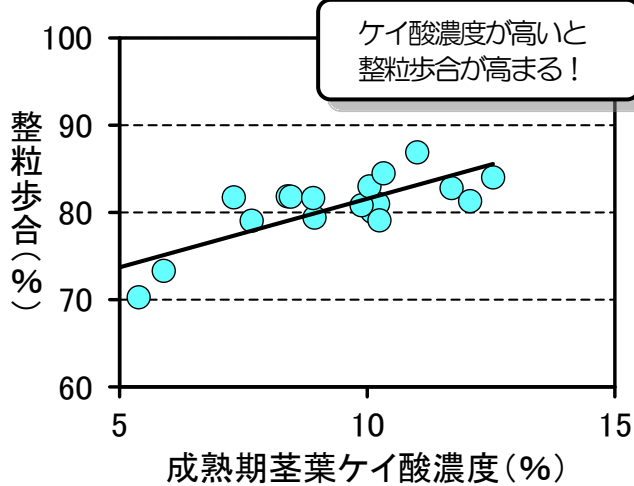
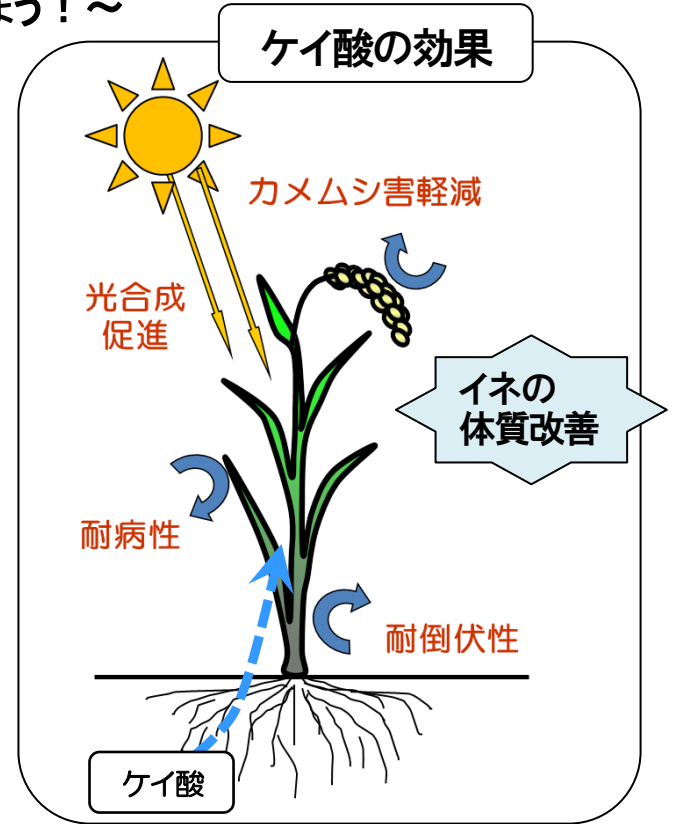


図1 成熟期の茎葉のケイ酸濃度と整粒歩合の関係

- ケイ酸の施用により
- ① 高温条件でも品質安定
 - ② 倒伏に強くなる
 - ③ 割粃の発生を抑えカメムシ被害が軽減される
 - ④ いもち病などにも強くなる



【土壌改良（ケイ酸&アルカリ分）資材の施用の目安】

JAあおばでは、ケイ酸質資材の購入代金に対して、1%の助成があります。是非ご活用ください。

資材名	施用量 (kg/10a)	主な成分	ポイント
あおばスーパーケイサン十 _{プラス}	90	ケイ酸 42.5%、アルカリ分 31.1% (分析例)	ケイ酸含有量が高く、pHも矯正。
シリカロマン	100	ケイ酸 25%、アルカリ分 45%、リン酸 5%、鉄 5%、苦土 7%	ケイ酸、リン酸を補給、pH矯正効果高い。
有機加里入 シリカロマン	100	ケイ酸 20%、アルカリ分 36%、リン酸 5%、加里 4%、鉄 4%、苦土 5%、有機 20%	シリカロマン + 有機質・く溶性加里 穂肥の加里・リン酸を秋・春先に省力散布。
灰入りスーパーエスアイ加里	100	ケイ酸 24%、アルカリ分 30%、リン酸 3%、加里 7%、苦土 3%	ケイ酸、カリを補給。pHも矯正。
あおばフミンエース	100	ケイ酸 22%、アルカリ分 30%、鉄 8.3%、苦土 2.5%、腐植酸 10%	ケイ酸や腐植を含む、各成分をバランスよく配合。

※上記以外にも土壌改良資材を各種取り揃えておりますので、各地区営農経済センターへご相談下さい。

2. 有機物の施用 ～有機物の施用であおば米の食味向上！！～

- (1) 牛ふん、豚ふん、籾殻堆肥や発酵鶏ふんの施用に努めましょう。
- (2) 堆肥が確保できない場合は、地力増進作物を作付け鋤き込みし、腐植を増やしましょう。

【堆肥】(秋施用)

堆肥名	施用量(10a 当り)
牛ふん堆肥	1～2t
豚ふん堆肥	
籾殻堆肥	2t
発酵鶏ふん	100～150kg

【地力増進作物】(秋播き)

<ヘアリーベッチ>

品種	晩生品種
播種時期	9月下旬～10月上旬
播種量	4～6kg/10a
鋤き込み時期	4～5月

転作(大豆、ニンジン等)の前作におススメ！！



富山県土づくりスローガン

いざ土づくり！
美味しい富山を届けよう！

3. 深耕で作土層を拡大 ～根を深く伸ばし、稲の活力を向上！～

- (1) 耕起時は、トラクターの作業速度を落とし、作土深15cm以上を確保しましょう。
- (2) 秋耕後は、排水溝(深さ20cm以上)を設置し、排水口と連結しましょう。

秋の土づくり運動

期間 9月15日～11月15日

